

10月登山教室山行「浅草岳・守門岳」

2017年10月7日(土)~8日(日)

大和田、渡辺、志尾崎、教室3名 計6名

10月7日(土) 曇り時々雨「浅草岳 1,585.5m」

3日前の天気予報で当日は雨模様とのことで、いわき出発を8時とし宿に直接行くことにした。本日は曇り空だが山の上は雨と思い天候は期待せず合同庁舎集合で出発。予定通り白河から甲子高原を歩いていくと、トンネルを過ぎたあたりから空が明るくなり雲が切れ奥会津方面にも青空が見えはじめ、急きょ条件が良ければ予定通り登山を楽しむことに。

駐車場に着くと曇空だったので急いで準備をして出発。コースは時間を考え最短の直登ルートを選んだ。登山道は前日の雨にもかかわらず少々濡れている程度だったが、ちょっと滑りやすい。紅葉はこれからか、黄・赤・緑が点在している状況でコントラストが美しい。尾根筋に出る付近ではいっそうきれいに見えた。ここからの山頂は雲の流れで見えたり隠れたりしていた。しかし足元をよく見まわすと付近一面の草原が草モミジ状況でとても美しかった。前岳ノ肩付近の木道は雨に濡れておらず、良く手入れされていてとても歩き易かった。

山頂に着くと風が多少強くなり視界が良くなかったがうっすらと田子倉湖が光って見えた。気温も低くなってきたので早々に下山することに。駐車場近くになって本格的な雨となった。近くの避難小屋へ入る。ここには1人自炊で泊まるのか、男性が湯を沸かしていた。我々は早々に宿泊先の民宿へGo。

コースタイム 12:30 ネズモチ駐車場→12:50 プナソネ分岐→14:40 前岳ノ肩→15:00 山頂→17:00 ネズモチ駐車場

10月8日(日) 晴 「守門岳 1,537.3m」

前日の天候とはうって変わって快晴の空模様。気持ち前向き。

ここで民宿(小西屋)の紹介。夕食のおかずの数にビックリ。10品以上はあったか、おかげで特産の魚沼産コシヒカリ米の美味しさがどこかへ行ってしまった気がした。(満腹満腹)

登山口は大原スキー場のロッジ脇から牧場跡地の道を進むと終点にあり、到着すると既に満車状態(15、6台)だった。



山菜栽培地の木道を進むとまもなくブナ林の中の急登となるが、足元が粘土状態の土なので木の根と合わせてすごく滑りやすい。やがて低木と松になり、エデシと言われる紅葉の黄・赤・緑のコントラストが目眩しい所に着く。ここからやせ尾根の急登となり所々にロープが掛けられてあり、登りより下りがちょっと面白い所かなと思う。先を見ると山頂は手前の尾根が邪魔して見えない。しかし付近の紅葉は見頃かなと思い振り返ると、前日登った浅草岳や奥会津の山々がスッキリ見えた。まもなくこのコース唯一の水場に着き、木々を抜けると三ノ芝でこの先二ノ芝、一ノ芝と続き、まわりは草モミジの草原でとても綺麗だ。天候も気温も穏やかで気持ちウキウキで山頂を目指す、途中足元が斜めで滑りやすい所もあるので要注意だ。

頂上からは多少雲があり展望としては浅草岳、会津の山々、越後三山が見え隠れしていたが気分爽快。今日は登山者が多いか、20人程見られた。中には同じ民宿に泊まった夫婦もいたようだ。(別ルートで登山)

下山も同じコースなので足元注意でGO。

※途中陽気のせいかニョロニョロと数匹遭遇。最後はマムシだったと思う。



コースタイム 7:30 大原登山口→10:30 三ノ芝→12:00~30 山頂→13:30 三ノ芝→
15:30 大原登山口

(文責：大和田哲夫)

11月登山教室山行「安達太良山 1,699.6m」

2017年11月4日(土)~5日(日)

大和田、秋葉、志尾崎、教室6名 計9名

登山教室の山小屋使用の山行は3度目かなと思う。今回は当初予定日が他行事と重なったせいで教室8名が6名となりちょっとさみしくなったが、初自炊ということで食担と事前打ち合わせをすることもあり、面白い山行ができるかと思い期待。

11月4日(土)曇り

当日は途中で食材を購入し(本宮ヨークベニマル)、一路奥岳駐車場へ。天候は今一つで山頂は雲の中で見えない。(駐車場はバス・マイカーで結構混んでいた)

早々に荷物を分担し宿泊先のくろがね小屋へ向う。コースは勢至平を通る通常のだが足元はここ2、3日の雨模様で滑り易い。紅葉は終りなのか、きれいさは今一だ。勢至平分岐を過ぎると小屋の屋根が見えはじめ早々と到着。小屋は満室状態でこの時期ならではと思った。

自炊の場所取り・準備が整った後、早々に待望の風呂へ。この時間に入るの初めてでありのんびりしようと思った。中に6、7歳の女の子が入っ



ていて、山頂は雲で展望がきかずガッカリしていた。(女の子曰く、お父さんは風呂に入りすぎてのぼせてしまったそうだ)我々は早々に上がり乾杯へ向う。早い時間からの酒はよく効く。女性陣に鍋の準備をお願いし、卓に上った酒類をいただく。鍋の基本はキムチだそうだがそれほど辛くない。他の教室メンバーも手伝っていて気持ち良かった。自分はいいい気分になり布団に入るなり消灯前には寝入ってしまった。

コースタイム 8:00 合同庁舎⇒11:00 奥岳駐車場→13:30 くろがね小屋

11月5日(日)曇り

夜中にけっこう強い風が吹いているのが窓越しに聞こえた。朝の天候がちょっと心配。目覚めるとまだ5時、電灯がつく6時まで布団の中でうつらうつらする。

朝食はタベの残り飯とうどんだ。あったかい汁物はありがたい。食後、準備をして外へ。少々寒いが風は強くなく雨は降っていない。

登山開始だが、ここで教室の女性1名は早々に下山することに。(予定していたらしい)30分程登るともう1人(教室の女性)が下山。(単独で行動)残り7名で先へ進む。足元は前日の天候のせいか



霜柱が良く育っていて低木は霧氷状態だ。まわりを見ると一面氷の世界の情景かなと思う程だ。峰の辻付近に着くと風が強くなり牛の背方面は雲の中なのでコースを左手に取り進む。

山頂は風がかなり強く祠も真白になっていた。早々に奥岳へ向け下山へ。30分程下ると風も弱くなり気温も少々上がり歩き

やすくなった。下からはこれから登る人々がそろそろの上って来た。薬師岳に着くとロープウェイで上って来た観光客が団体で多くいた。我々は五葉松コースで奥岳駐車場へ向いGo。(駐車場で教室の女性2名と合流、安心した。)

昼食は岳温泉のソースカツ丼(1時間待ち)、食後山を見上げると青空が一面に広がり、秋口の天候の変化には毎年悩ませられる。

コースタイム 7:15 くろがね小屋→8:45 峰の辻→9:15~30 山頂→10:30 薬師岳→12:15 奥岳駐車場⇒16:30 合同庁舎
(文責:大和田哲夫)



太刀岡山 1296.7mと羅漢寺山 1058.3m (弥三郎山)

2017年11月18日(土) 曇り一時にわか雨 下山田安廣

17日、目の定期検診でせっかく東京に行くのに日帰りはもったいないので、今回も何処かに行きたいと思い雑誌を見ていたら18日新宿発の日帰りで山梨



100名山2座をめぐるツアーがあった。それも山梨の昇仙峡を登る。

今の車を取りに行った際、近くで観光できる場所は、と聞いたところ「昇仙峡

は？」と返事があったので向

かったが、夕方になってしまったのと予備知識がなかったので駐車場があったが他の車は1台も見当たらないので引き返してきてしまったので参加することとした。



羅漢寺山(弥三郎山)山頂

18日、新宿西口に7時集合、天気予報は雨そのせいかキャンセルが4名あったが、バスに乗り込み出発。甲斐市下芹沢の太刀岡山登山口に10:00到着。どんよりの空模様の中歩き始める。すぐに、急な登りが始まる、これが山頂まで続く。山頂から北峰が高いので往復する。パラパラ来たので雨具を着て下山は来た道を下る。(すぐにやんだ)

<コースタイム>

下芹沢登山口 10:04—太刀岡山山頂 11:11~11:25—北峰 11:35—12:35

羅漢寺山：地図上は羅漢寺山だが、山頂表示は弥三郎岳となっている。昇仙峡にある昇仙峡ロープウェイのパノラマ山頂駅から、羅漢寺山(弥三郎山)まで20分。今回は太刀岡山を下山後バスで金桜神社まで行き下車、昇仙峡ロープウェイパノラマ台駅まで歩く。ここまでは林道、パノラマ台駅からようやく登山道らしくなった。山頂からは雲が上がったり下がったりであったが、南アルプスの甲斐駒、



鳳凰山、大きな富士山のすそ野、ハケ岳、そして茅が岳等が眺望出来た。それはすばらしく、天気の良いときにもう一度来たいところであった。今日一日天気予報では雨だったが一時にわか雨で済んで参加者一同儲かったなー、と話をしていた。

下山はロープウェイで天気のせいかすんなり乗れた。

<コースタイム>

林道入口 13:14—パノラマ駅 13:57—弥三郎山 14:16—ロープウェイ山頂駅 14:15—ロープウェイ乗り場—新宿西口 18:20

栄蔵室山（881.6m・茨城県最高峰）・花園山（798m）

2017年12月18日（月）

下山田、秋葉、芳賀（登山教室）、高野、小野（夢想山の会）

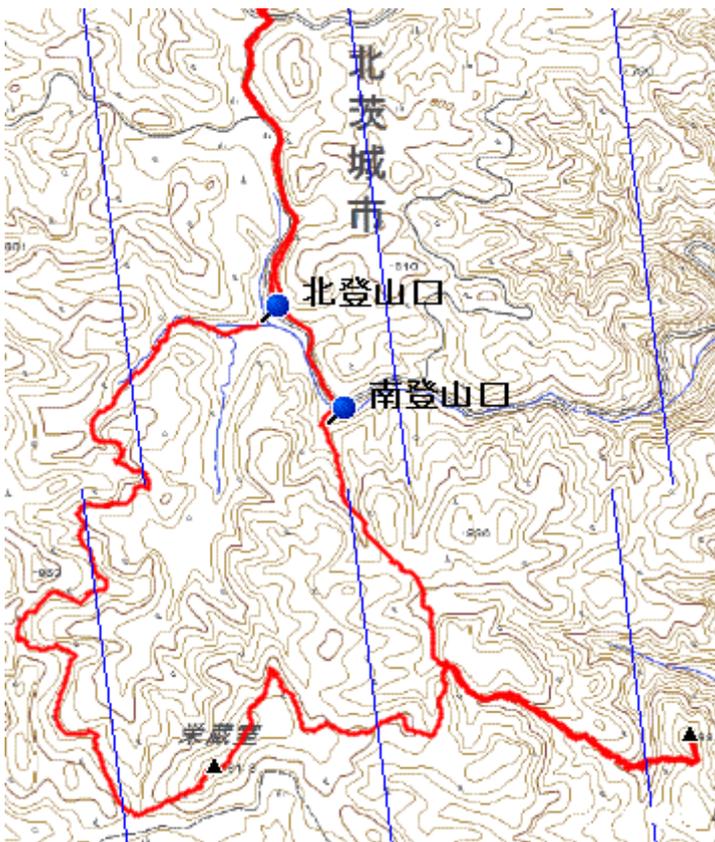
昨日より暖かく天気も良い。一路花園神社を目指す。神社から花園溪谷沿いに車を走らせて、猿ヶ城林道が通行止め、反対側からといったがこちらも通行止め。そんなに遠くないと道路わきの車を止め歩き始める。やがて着た登山口があった。ここから一路栄蔵室山へ、作業小屋で体温調整、道は立派になり、雪が残っている。作業道から外れ栄蔵室山へ、山頂手前に展望台があるが、富士山は見えず。花園山を目指す。この辺は小さな沢が多く、水は豊富だ。木々の間から望む花園山は遠く見えるが、急登は続かず頂上に着くことが出来た。花園神社からの登山道は見えなかった。南登山口から北登山口に出たが、生きと同じく、カケスが鳴いていた。



<コースタイム>

猿ヶ城林道出口 9:20—北登山口 9:33—作業小屋 9:56—栄蔵室山 10:31—分岐 11:00—花園山 11:20—分岐 11:47—南登山口 12:02—北登山口 12:08—猿ヶ城林道出口 12:20

猿ヶ城林道出口より100m入ると野口雨情の碑が立っている。文字は判読できず。



文責：下山田

アフターサンシャイン「ニツ箭山」報告

平成29年11月11日(土)

一般参加者：19名、

山岳会：秋葉、関内、平子、渡辺(敏)、下山田、大和田、渡辺(恵)
甲高、志尾崎、斉藤、芳賀

前日の予報では天候があやぶまれたが、曇り空。かぜが非常に強く冷たい。ニツ箭山駐車場で2班に分かれ、9時出発。



かなり着込んで出発するも、歩き出して程なく、一枚ずつ脱いでいく。しめ張り場等の岩場でも全員が難なく登る。女体山直下の鎖場は1班9名が登り切ると、1班ができたのだから私たちもできると、10名全員登攀。

強風であったが、晴天の下頂上からの眺めはすばらしく、遙か遠方の山々までくっきりと見え、参加者は感激していた。三角点に移動し、昼食。下りの道もかなり険しかったが、全員けがもなく無事に下山した。

「一人なら自信がないので鎖場の登りはやらないが、みんながやったので、やってみたらできた。こんな経験ができ、山の楽しさがわかり、できた自分に自信がついた。これからの生活も楽しくなる。」とはある女性の談。また別の女性は「あんなガケを自分が登れたのはすごい！生きる励みになりました。」と言っていた。

(文責：志尾崎裕子)



田人の気になる山（3） 猿内 779m

秋葉信夫 2017年12月21日

猿内（779m）とは奇妙な名前だが、田人町の旧朝日牧場の傍らのピークである。田人で一番高い山は朝日山（797.3m）であるが鯨川村との境界にあるため、それを除けば猿内が田人の最高峰であり、それに続くのが高ボッチ（778m）である。

最高峰は田人のどんなどころか興味がある。地図には近くまで道路が入っているが、作業道だったのか藪に埋もれ分からない。それらしい頂上に一番近そうなところに車を置いて歩き始める。



藪をかき分け沢を渡ると最近伐採したらしい、作業道が出てきたのでそれを辿ると頂上まで続いていた。

頂上は三等三角点で、樹間から朝日山を望むことができた。小さな「頂上表示」もあった。こんなところまで来る物好きは私以外にもいるのだと感心してしまう。

付近には新しい杭が打ってある。旧田人カントリーから三株山の手前までこの稜線は田人風力発電建設地になっており、6基が建設される、そのための杭であろう。

5年後にはこの辺の景観は一変することを考えると、こんな藪山でも愛おしい。是非出かけてみてください。

往復約1時間

田人の気になる山（４） 大・中・小丸山

2017年12月24日

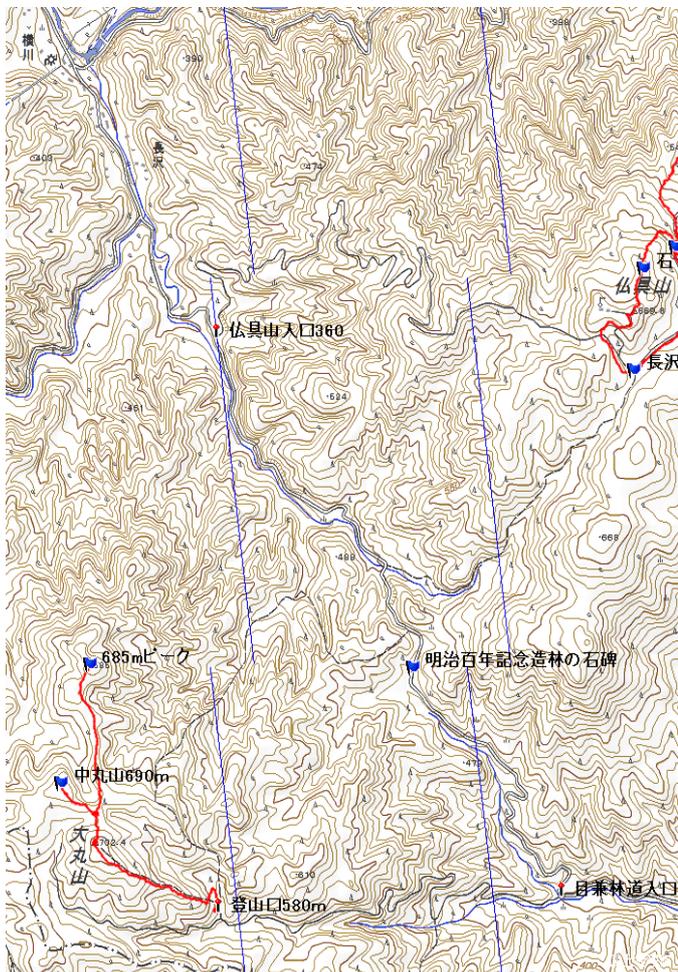
秋葉、渡辺敏夫、太、芳賀、遠藤紘子、作山、小松

11月22日に大丸山の登山道整備を行った。以前はゲートがあり目兼林道入口から約40分ほどの林道歩きを強いられたが登山口からだと30分程度で頂上に行けてしまう。それではあまりに物足りない。



そんなことで、以前から気になっていた明神石というところまで登山道を整備しようと声をかけると7名が参加してくれた。

大丸山から猛烈な藪を刈り進むが鞍部付近からは藪もなくなった。境界の土塁に沿って進むと小ピークに藪に埋もれた巨石群が現れてきた。



藪を刈り払うと、とても素敵なおところになりました。「明神石 685m」の案内板を取り付け、記念撮影をして全員満足、気分よく戻った。

ところが、帰ってパソコンに軌跡を下してみると、あそこは明神石ではなかったらしい。もう一度確認してやり直す必要がある。

12月26日 秋葉、下山田、馬場

鞍部から先日歩いたところの右の作業道を辿ると685mに着く。

685mピークには「小丸山 685m」の案内板を付け、鞍部まで刈り払いを行う。

先日刈り払った「大石」まで行ってみる。こちらの方が約690mで「小丸山」よりやや高く、5つの大石もありより気持ちの良い所だ、ふさわしい名前をと全員の意見が一致し、前回取りつけた案内板を「中丸山 690m」と訂正した。



鞍部には「←中丸山の太石」「小丸山 685m→」の案内板を付けた。

大丸山～鞍部 約 5 分、鞍部～中丸山 約 10 分、鞍部～小丸山 約 15 分。

大丸山、中丸山、小丸山を合わせて楽しんで欲しい。登山口は国道 289 号線、「おふくろの宿」の手前、「四時川遊歩道入口」「草木山荘 4 km」の看板から「えじりはし」を渡り、横川ダム、草木山荘、仏具山入口、目兼林道と進む。

文責：(秋葉)



「スキー講習と山スキー実習」

2018 年 1 月 22 日(月) 猪苗代スキー場

参加者 秋葉、下山田、渡辺、栗崎(透)、栗崎(容) 計 5 名

日本列島が広い範囲で大雪に見舞われた 1/22、降雪前のピンポイントを突いてスキー講習に参加してきました。ほぼ一週間前の 1/16 にも、同スキー講習で指導いただいていたので、この日は実際にバックカントリーに入り、シール登高と滑降を実施し、その後グレンデに戻りできていない点をさらに練習する…という段取りでした。

幸い午前中の山の様子は、雪も降らず高曇りで、磐梯山山頂まで見えている状態。

リフトを乗り継ぎ(滑り降りる部分は、せっかくの滑走斜面を惜しむように講習)、リフトトップでシールを装着して新雪の斜面を登ります。



最初の内は、かつてはグレンデであった斜面(天の庭コースでしょうか?)を登り、その後は未伐採の領域を登ります。

ジグザグを切る折り返しの部分のコツや、斜面を横向きに登るコツなどを教えていただきながら汗をかきかきの登りでした。

出来れば赤埴山山頂辺りまで…ということでしたが、天候が崩れることは間違いないということと、登りも下りも超初心者の我々は

時間がかかる…ということで赤埴山頂の手前で折り返し、下りました。背の低い木々の多い斜面でしたが、雪質と、何よりも前回の講習と今日の講習(特に真下・前方下・後方下への横滑りの練習!)がすごく効いて、昨年 4 月の高曽根山山行とは雲泥の差で降りることができました。(滑走した…とは言いませんよ・笑)

そして、秋葉講師が、繰り返し繰り返しその「横滑りの重要性」を説き、練習を繰り返してくれた意味がよくわかりました。

かつてグレンデであつたらしい未圧接の新雪の斜面は、最高に気持ちのいい下りでした。

その後、昼食をはさんでさらに色々な滑りの講習。

雪が降り始め、天候が下り気味になったところで終了となりました。

とても有意義な講習に感謝いたします。(文責・栗崎容子)



「いわきの山の観光について」質問

会員である狩野光昭議員が、12月市議会で「いわきの山」に関し質問を行い、秋葉、下山田、馬場が傍聴しましたので報告します。

質問 平成22年以降の夏井川渓谷の観光客の人数は？

答弁 震災前の平成22年68万1千人、震災の23年6万8千人、24年14万5千人、25年15万3千人、26年12万4千人、27年12万1千人、28年11万6千人。

質問 高速道路出口から主要な市内の登山口までの案内標識が不十分

答弁 ニッ箭山や背戸岨廊等の主要な山々への道路の案内標識は登山口周辺県道等を中心に整備している。今後は山岳会など関係団体の意見を伺いながら、追加設置の必要性も含めて検討する。

質問 アフターサンシャイン博の一環として取り組まれている市内の登山ツアーの概要について

答弁 地域の資源を掘り起こし、観光振興と地域の活性化を目的に実施。ニッ箭山や明神山などを観光資源と捉え、石城山岳会などと連携し、登山と農産物の収穫体験などを組み合わせ、周遊ツアーを5回実施し、136人の参加。

質問 登山ツアーを継続して欲しいとの要望がある

答弁 参加者からは、「山岳会の説明があり、分かりやすかった」、「また参加したい」、「始めて登る山なので、山岳会の案内で安心して登れた」など好評でした。今後も山岳会、各地域団体、旅行業協会などと連携をし、登山を組み合わせた周遊ツアーの催行を検討したい。

質問 地元山岳会等と連携し、市内の主要な山について特徴ある山開き開催しては？

答弁 本市の山々は標高が低く初心者でも1年を通して登山可能であり、太平洋が臨めるなど優れた魅力も多い。積極的にPRするとともに、石城山岳会が主催する石城七峰縦走や、みんなで歩こう 関加井嶽、湯ノ岳お山掛け等の山に関するイベントを幅広く発信したい。

(文責 馬場)

こんな風になってしまう

風力発電配置予想図



遠野環境を守る会作成